

国際セミナー「鉄道整備と沿線開発」
在タイ日本国大使館 関口昇 公使 来賓挨拶

ソラポン 運輸省鉄道局長、岡西 国土交通省国際統括官、アーコム 前運輸大臣、宿利 運輸総合研究所会長、ご来場の皆様、本日はお招き頂き、誠にありがとうございます。

ただ今ご紹介頂きました、在タイ日本国大使館で経済部長を務めております関口です。

セミナーの開催にあたりまして、在タイ日本国大使館を代表して、一言ご挨拶申し上げます。

ここ数年、タイでは公共交通の整備が急速に進められており、我が国も JICA による支援等を通じてタイ政府の努力を後押ししています。

特にバンコクにおいては、先日ついに地下鉄ブルーラインの環状線化が実現いたしました。その他にも非常に多くの都市鉄道整備プロジェクトが現在進行中であり、これに伴い、バンコクの「まち」の姿も急速に変貌しつつあります。

一方で、バンコクの人々は、深刻な自動車渋滞や大気汚染などの問題に悩まされています。

これらの問題を解決していくためには、都市鉄道の整備を通じて、人々の交通手段を現在の主流である自動車から、輸送効率が高く環境負荷が低い鉄道へとシフトさせていくことが必要となります。

この都市鉄道整備をより効果的なものとするためには、鉄道整備と一体となった沿線開発を戦略的に行うことが不可欠です。

鉄道整備と一体となった戦略的な沿線開発は、鉄道利用者の増加により鉄道事業の採算性を高め、そのサステナビリティの確保につながると共に、人々の生活の利便性を高め、その沿線の地域全体の発展するものです。

この鉄道整備と沿線開発は、日本が多くのノウハウと経験を有する分野であり、このセミナーを通じて、日タイ両国の政府、民間企業、有識者といった皆様に我が国の知見が共有され、タイの発展に貢献できるこ

とを大変嬉しく思います。

また、最近のもう一つのキーワードは「スマートシティ」です。

2018年のASEANサミットで立ち上げられた「ASEANスマートシティ・ネットワーク」に、タイからバンコク、チョンブリ、プーケットの3都市が登録されています。

これから鉄道整備が急速に進むタイは、駅を降りた「まち」も先進的で、多様なサービスが受けられるスマートなものを目指すべきであろうと考えます。

例えば、バンサー駅周辺のスマートシティ化については、JICAが計画づくりをサポートしながら、人々のスマートな移動や、スマート・エネルギー、環境配慮の実現に向けた取組みが進められています。バンコクは、新しい時代のまちづくりに挑戦する格好の舞台となるでしょう。

これからもタイにおける鉄道整備、沿線都市開発、スマートシティ化に関する日本の協力を続けていきたいと日本政府は考えております。

鉄道整備やまちづくりは数十年という長い時間をかけて行っていくものです。

日タイ修交130周年を3年前に迎え、様々な協力関係が既に構築されている日タイ関係ですが、本日のセミナーが契機となって、この分野が日タイ協力の新たな太い柱となり、ひいては両国の絆が一層深まることを強く期待しております。

最後に、このセミナーのご成功と、本日も列席の皆様の益々のご活躍を祈念し、私の挨拶とさせていただきます。

どうもありがとうございました。

以 上